

第4期第4回
札幌市市民活動サポートセンター
事業運営協議会

議 事 録

日 時 : 平成21年11月25日(水)
場 所 : 札幌エルプラザ 2階 会議室1・2

1. 開 会

事務局（高森主査） 本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

これより、札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会を開催させていただきます。

議事に入るまで進行を務めさせていただきます高森と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長あいさつ

事務局（高森主査） 開会に当たり、市民活動サポートセンター指定管理者として管理運営を行っております財団法人札幌市青少年女性活動協会事務局長の高橋よりごあいさつを申し上げます。

事務局（高橋事務局長） 皆さん、こんばんは。

札幌市青少年女性活動協会事務局長の高橋でございます。

市民活動サポートセンター事業運営協議会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、皆様方には、大変ご多用の中を多数ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

きょうは、平成21年度2回目の協議会でございます。さきにご案内したとおり議題を用意しておりますので、また貴重なご意見を賜りたいと考えているところでございます。

ことは、6月にもお話ししましたとおり、今回の指定管理期間の最終年となっております。平成18年から指定管理者として管理運営を担わせていただいておりますけれども、ことしが最後の年でございます。

私どもは、この指定管理を引き受けるに当たりまして、市民活動サポートセンターの事業運営につきましては、3点を重点項目として取り組んでまいったわけでございます。1点目は、市民活動団体との相互理解、市民活動団体との連携、協働事業を通しまして相互理解を高め、信頼関係が生まれることを目指してきたところでございます。2点目は、拠点施設としての市民認知の確立として、市民が一つの施設を利用するだけでなく、自分に必要な情報や事柄について、この公共4施設を気軽に利用できるということを目指してまいりました。3点目は、地域との連携といたしまして、平成17年度から培ってまいりました地域との連携がさらに深まり、施設の一体化事業に参加するなど、市民活動団体と地域の団体との交流が行われるようコーディネートすることを目指して事業に取り組んできたところでございます。特に、2点目の拠点施設としての市民認知の確立の中では、市民活動サポートセンターが情報発信拠点としての機能をより一層高めていくためにも、情報または学習資料の重要性が大きな要因となってまいるわけでございます。

そういう意味で、本日は、既にお示ししておりますとおり、団体活動支援に関する業務、

いわゆる情報センターとの連携につきまして、札幌市市民活動サポートセンターの利用者が情報センターを活用するための方策などのご意見やアイデアなどを皆さん方から頂戴し、団体活動支援の充実を一層深めてまいりたいと考えておりますので、どうか本日は貴重なご意見を賜りますようお願いを申し上げますとところでございます。

なお、前回は触れさせていただきましたけれども、来年以降の指定管理者につきまして、去る9月18日に所管局におけます選定委員会がございまして、その場で審査を受けたところでございます。おかげさまで、次期の指定管理者候補者として私ども協会が選定されたところでございますので、まず、ご報告を申し上げます。ただ、正式決定には、12月に開催されます第4回定例会市議会の場におきまして議決を経て指定される予定となっております。

今後とも、エルプラザ公共4施設の設置目的を達成するために、また複合施設としての利点を生かして、それぞれの施設が相乗効果を発揮させ、多くの市民の方に活用され、市民活動の拠点としてこの施設が一層進展することを目指してまいります。そのためにも、ぜひ委員の皆様方にもこれまで以上にご指導を賜りますようお願いを申し上げまして、本日の協議会に当たりましてのごあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務局（高森主査） なお、この会議は、市民の皆様は傍聴席を用意し、会議の経過を聞いていただくことができます。

さらに、市民活動サポートセンターホームページで議事録を公表させていただきますので、皆様の前にマイクがございしますが、集音にご協力をよろしく願いいたします。

それでは、議事に進めさせていただきます。

ここからは、横江座長に進行をお願いいたします。

3. 議 事

横江座長 皆さん、どうもこんばんは。

ただいま、事務局の方から説明がありましたけれども、議事ということで、次第に二つ載っております。1番目は、平成21年度事業実施状況及び施設利用統計報告について、2番目は、検討事項である団体活動支援に関する業務（情報センターとの連携）についてです。

まず最初に、事務局の方で議事（1）について説明をしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局（小野主査） よろしく願いいたします。

それでは、平成21年度札幌市市民活動サポートセンター事業実施状況の報告をさせていただきます。

前回の事業運営協議会が6月24日に開催されておりますので、それ以降に実施いたしました事業を中心に説明いたします。

お手元にごございます別紙 1、概要一覧をごらんください。

事業名がそれぞれ載っております。その事業名の横に、資料 から資料 まで記入されている事業につきまして、その資料をもとに説明を進めさせていただきます。

それでは、資料 をごらんください。

市民活動情報誌の発行「みんなのしみサポ」です。7月31日に発行いたしました第21号でございます。委員の皆様よりアドバイスをいただきまして、サイズをA5判からお手元にありますA4判、またはどなたにでも読みやすいようにということで、字の大きさに対応させていただき作成いたしました。間もなく、第22号を発行する予定です。

続きまして、クリーム色の印刷用紙がございます。こちらは、みんなのしみサポを発行して初めての号外となります。エルプラまつりとの同時開催となりましたしみさぼカフェを特集といたしました。この号外の作成に当たりましては、しみさぼカフェの参加団体の皆様により印刷、紙折り、配付等のご協力をいただきました。

続きまして、資料 へまいります。

事業名は「市民活動相談」になります。

お手元の資料は、平成20年度の市民活動相談の報告書となります。作成に当たりましては、さぼネットの相談員の方々を中心に職員とともに作成し発行しました。

内容といたしましては、「市民活動誕生のきっかけを実例から知る」「18分野の市民活動団体の紹介」「市民活動またはNPOの意味を再度考えてみる」「市民活動相談の傾向を分析する」などが盛り込まれており、これから市民活動を始める方々や既に活動をなさっている方々への参考書的なものにしていただきたいという思いが込められております。

続きまして、資料 に移ります。

事業名は「しみさぼ調査隊」になります。

今年度の目標でもあります全区での展開に向けて、毎月各区で実施しております。この表は、5月から10月までの実施分です。また、展示パネルにつきましては、委員の皆様より「市民向けのデザインにしてはどうか」または「回答しやすい内容にしてはどうか」などのアドバイスをいただきました。それで、内容や掲示の順番の見直しを図り、よりグレードアップし現在も実施しております。より広く市民の方に参加していただけるような事業として取り組んでおります。

部屋の壁側にごございますボードをごらん下さい。

サポートセンターの主催講座であります市民企画講座の時間に、このボードを会場に持っていき参加していただく状況であります。実際に各区に回るのは、このサイズの倍の大きさを掲示しております。

また、調査隊のスタイル（展示パネル方式）が市民の方々に関心をいただいているということを知り、市民活動サポートセンター自体をPRするための展示パネルを作成いたしました。現在、2階の交流広場でパネル展を実施しておりますので、お帰りの際にはぜひごらんいただきたいと思っております。

続きまして、資料 に移ります。

事業は、「市民企画講座」です。

今年度実施しております20団体についての様子を記述しております。特に、支援内容、支援結果の内容につきましては、団体と職員とのやりとりや思いがあらわれております。また、ともに成長していく過程がうかがわれると思います。今年度は、対応が不十分にならないように、募集团体数を制限や打ち合わせ内容の整理を行い、改善に取り組んでおります。当然のことながら、団体によって必要な支援は異なっていることを強く感じております。画一的なプログラムを用意するのではなく、団体の状況に応じた臨機応変な対応を行うことの大切さを職員は認識しております。団体との打ち合わせを繰り返し、ニーズと支援内容のすり合わせを行っていき、一層の事業充実を図っていくことを目的としております。

また、既に実施終了された団体の中からは、今度は子どもたちを対象として実施してみたい、または今回の事業で終了するのではなく、その後、参加者に対するフォローアップについても考えていきたいという声が上がっており、札幌市内の児童会館での展開やフォローアップ講座の打ち合わせを今、団体とともに進めているという状況であります。

続きまして、資料 、今年度、新たな取り組みとして実施しております市民企画講座に対する「説明会」と「団体交流会」になります。それぞれの団体が持つノウハウや情報を他の団体と共有することができれば、事業経験の浅い団体にとっては大変大きな財産になるという思いで実施しております。

特に、2回目「中間報告会」を9月21日に行いました。14団体24名の参加があり、これから実施する団体にとっては、不安を少しでも解消しようという姿勢がうかがわれる情報の共有ができた場面でありました。

ページの最後に、グループミーティングという写真が載っておりますが、三つのグループに分かれて職員がそれぞれに入り、団体の進行状況、または発表事例に対してのアドバイス、または協力についてのお話が尽きないくらい行っていました。また、託児の協力をいただきたいというお申し出もあまして、団体同士の連携が生まれております。

続きまして、資料 に移ります。

事業名は、「しみさぼカフェ」になります。

前回の協議会での検討課題「しみさぼカフェの展開について」ということで、委員の皆様より多数のご意見やアドバイスをいただきました。その検討内容をどう事業へ反映していったのかを事業報告の最後にプロジェクターを使用してご説明を申し上げます。

資料 に移ります。

事業名は「しみさぼ出張所」市民活動相談窓口を各種のイベントを初めとした外部の会場で実施するというので、2会場にブースを設置いたしました。

9月5日は、男女共同参画センターの3階ホールで、札幌市主催の「まちづくりフェスタ2009」の会場に出展させていただきました。参加者の中には、興味を持って報告書

などを持ち帰る方も複数いました。

また、翌日の9月6日に実施いたしました「さっぽろパフォーマンスカーニバルだい・どん・でん！」は、ごらんとおり歩行者天国で、大道芸人のパフォーマンスを見学する人がたくさん行き来する中での展開でした。残念ながら直接の相談業務はありませんでしたが、サポートセンターの名前を見て町内会の運営の話がされる方、または、室蘭市のサポートセンターを利用しているという方もいらっしゃいまして立ち話をしていました。サポートセンターの名前が少しでも知れ渡ったのではと思っております。

続きまして、資料 に移ります。

活動支援環境の整備、ここでは事務ブースの使用状況の報告をいたします。

10月1日現在、事務ブースの状況は、19区画のうち空き区画が2区画、ブースナンバー18、19、また平成22年3月末で3年となる団体が1区画、ナンバー14。そのような状況になっております。

入居団体または入居期限は、次ページに詳しく掲載しております。

今後の事務ブース入居についての予定ですが、広報さっぽろ1月号に入居団体募集記事を掲載いたします。2月下旬に入居団体の選考会、3月中旬に説明会、そして4月1日入居という運びで準備を進めております。

続きまして、資料 、これも新たな資料になりますが、市民活動サポートセンター、まちづくりセンター、NPO、市民らとさまざまなユ ーザーのホームページ「さっぽろまちづくり総合ポータル」の効率的な運用を目指して「さっぽろまちづくり総合ポータル運営委員会」を開催いたしました。

お手元の資料は、市民からのご意見をいただき、今後のあり方、方向性を示し、改善していくための検討材料として、8月1日から8月31日の1カ月間、ホームページ上で意見を募集し集約した結果であります。その結果を踏まえて、「さっぽろまちづくり総合ポータル」運営委員会を開催し、その概要が説明されております。現在、運営委員会での検討結果をもとに、札幌市、NPO団体、ホームページの作成業者、サポートセンターが定期的に会議を持ち、課題解決へ向けての検討をしております。

続きまして、資料 になります。

平成21年4月から10月までの統計報告をいたします。

施設利用状況総括表になります。

市民活動サポートセンター施設利用を初め、相談事業、見学、前年度同月に比べまして増加をしております。この増加の要因と考えられる点は、土曜日、または日曜日に学生中心の団体の方々の活動が盛んになってきております。特に、打ち合わせコーナーはあふれるほどの利用になっております。

続きまして、特定利用施設、活動支援施設利用状況、こちらも前年度同月の数字よりも増加しております。特に、相互利用件数の多さが見受けられます。やはり、団体の活動の活発さがうかがえると思います。

続きまして、市民活動団体等登録数の集計です。

昨年2月に実施いたしました団体情報などの調査、登録、更新の手続きですが、連絡がつかないとか所在不明ということで削除された団体が、ひょっこり印刷をさせてほしいということで訪れております。それらの団体が毎月登録しているという数字となります。

続きまして、サポートセンターの印刷作業室、パソコンコーナー利用実績です。経費削減を目指しているのか、カラーの印刷枚数が非常に減っております。その分、印刷機での印刷枚数及び製版枚数が増加しております。そのため、インク、マスターの消費も非常に早く、また部品の調整、交換の時期の間隔も早くなり、業者との連携を蜜に努めております。

続きまして、サポートセンターの相談件数集計表になります。

前年度同月に比べ150件の増加が見られます。手前みそですが、先ほどの「相談報告書」「みんなのしみサポ」「メールマガジン」「しみさぼ調査隊」などの事業を通して市民活動に興味、関心を持っていただけたのではと思っております。また、さぼネットの相談員さんらの親切丁寧な対応が増加につながっていると思います。

次に、ホームページアクセス数は依然としてサポートセンターだけが低迷しております。

この低迷を先ほどのホームページ、ポータルサイトで整理し現在改善を進めているところであります。

最後になりますが、「しみさぼカフェ」について、事前ミーティングから終了時まで事業担当として携わった森口主任、川村職員より、プロジェクターを使用して説明させていただきます。

事務局（川村職員） 札幌市市民活動サポートセンターの川村です。

パワーポイントをご用意させていただきましたので、こちらを元に皆さんへしみさぼカフェの実施報告をさせていただきます。お手元の資料と若干重複する部分もあるのですが、ご了承下さい。

では初めに、しみさぼカフェというイベントが今までどのように行われてきたのかをご説明させていただきます。

そもそもこの事業は、一般の市民の方と市民活動団体に交流の場を提供できないかということで始まった事業です。

こちらの写真は第1回開催時の様子です。平成19年2月17日に実施いたしました。会場は、こちらの会議室1・2を使っております。出展いただいた団体は、5団体、来場者は150人程度でした。そして、2年後の平成21年1月24日に第2回を実施いたしました。前回から規模を大きくいたしまして、札幌市市民活動サポートセンター全面を使って行いました。出展団体数が16団体、来場者は延べで323名で、ほぼ倍に膨れ上がっています。

こちらを見ていただくとわかると思うのですが、雰囲気はそのままにどんどん規模が大きくなってきているという状況です。

平成21年度は9月12日に実施しました。2階全面を会場とし、サポートセンターからこの会議室1・2の入口までの間に出展団体のブースが並び、来場の皆さんをお迎えしました。動員数は、さらにふえまして、延べ1,092人の皆さんにお越しいただきました。札幌エルプラザ公共4施設が共催で同日に行いました「エルプラまつり」と一緒に実施したことによるところもあると考えています。

「エルプラまつり」とは、札幌エルプラザ公共4施設、男女共同参画センター・消費者センター・環境プラザそして市民活動サポートセンターの4施設で、地域の皆様や利用いただいている皆様に感謝の気持ちを込めて行った共催事業です。

スライドの写真順にご説明しますと、まず右上の「そば処かがやき」では当日来場の皆さんにおそばを出していただきました。本日もお越しいただいている坂井委員が代表をつとめる特定非営利活動法人ナルク札幌中央かがやきさんにご協力をいただいたコーナーです。

その下は、3階にありますホールの様子です。こちらはシーバルクといって透明のごみ袋をつなげて、お子さんが入って楽しめる大きなトンネルをつくっていただきました。NPO法人チャイルドラインさっぽろにご用意をいただいたものです。

そしてこちらは、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズにご用意をいただいたカブラという積み木のようなおもちゃです。このようにこちらのホールでは来場の子どもに遊んでいただけるような内容の催しを行いました。

こちらは、札幌市社会福祉協議会が主体となり、開催した「わっしょいボランティアまつり！」の様子です。4階の中研修室で行われました。

その横の画像は、エルプラザ利用団体による活動発表展の様子です。3階、4階の全面を利用して、主に男女共同参画センター利用団体の皆さんに活動の発表をしていただいたコーナーです。

男女共同参画センター利用団体の中には、サポートセンターの登録団体もいるのですが、圧倒的に多いのはやはり市民活動団体ではなく、サークル団体です。今回「エルプラまつり」と「しみさぽカフェ」を同時に開催したのは参加者がふえることだけをねらったのではなく、ふだん余り接点がないサークル団体と市民活動団体が交流することのできる相互理解の場となればというねらいもありました。

また、前回協議委員の皆さんにいただいたご意見の中で、こういったイベントではオープニングやエンディングにセレモニーのようなものがあつたらよいのではないかというご意見をいただいております。今年度はご意見を参考にオープニングセレモニーを3階のホワイエで行いました。各団体最初に顔を合わせていただいてからイベントをスタートすることができ、4施設の職員と参加団体との一体感がそこから芽生えていたように思います。

それでは、ここからまたカフェの説明に戻ります。

こちらは、参加協力いただいた団体の一覧です。お手元の資料の中にも、同様のリスト

がありますので、詳しくはそちらを見ていただければと思います。今年度はとにかくいろいろな分野から団体に参加いただきました。結果、出展内容もバラエティに富んだものを来場者の皆さんに提供することができたのではないかと思います。

また、今回は事前に「しみさぼカフェ」協力の全団体を参加対象としたミーティングを行いました。こちらは、第1回、第2回事前ミーティングの様子です。

第1回では、顔合わせということで、各団体による自己紹介をしていただきました。その後は情報交換の時間をとりまして、お互いどんな団体でどんな出展を予定しているのかという話に花が咲いていたようです。第2回では、カフェスペース、商店街、ワークショップのコーナーごとに分かれていただき、職員が1人ずつ入りまして、各コーナーごとに情報の共有を行いました。

今回は、ミーティングを重ねていく中で、だんだんと連帯感というものがつくられていったように思います。出席率も非常に高く皆さん主体的に参加していただけたと思います。

では、ここから各カフェのコーナーの説明をさせていただきます。

まずは、カフェスペースです。飲み物や軽食を提供して、交流の場としてのスペースを提供したのがこのコーナーです。場所は、札幌市市民活動サポートセンターの打ち合わせスペースを使いました。ここが会議コーナーの壁になっておりまして、その横の事務ブースまでをカフェスペースとして開放しました。当日は出入りが非常にオープンな形で実施しました。交流がメインの事業ですので、カフェスペースはしみさぼカフェの中核といってもよかったコーナーのではないかと思います。

当日は5団体がこのような食べ物、飲み物を販売していました。「日本茶インストラクター協会」という団体が氷に温かいお茶をかけてその場で冷たくした「冷茶」などはとてもよく出ていたようです。こちらのネパールの紅茶は三浦委員が代表をつとめる「ヒマラヤ圏サバナ」に出していただいたのですけれども、これもよく出ていたように思います。

次に、しみさぼ商店街です。

商店街という名前からもわかりかと思うのですけれども、こちらは団体の活動成果物を直接来場の皆さんに販売していただくというコーナーです。最も多くの参加があったコーナーで、17団体にご参加いただきました。

いろいろな団体がずらっと廊下に並んで販売していたのですけれども、時間が終わるのを待たずに完売された団体もいらっしゃいました。本当にバラエティに富んでいたなと思います。売り方なども団体ごとにカラーがありまして、「おきなわ工房」という団体さんは沖縄の三線という楽器を廊下で弾きながら、お客さんが振り向いたときに、ちょっとこんなのですかという形でお話をしたりといった形で、非常ににぎやかな形で進められていたりもしました。

また、しみさぼ商店街の売り上げは、一部、チャリティーでの寄付をお願いをしていました。寄付先はこちらに列記してあるとおりです。例えばこの中の「北海道盲導犬協会」などは、エルプラまつり2009の方にも特別参加ということでご参加いただいた団体さ

んです。当日直接、盲導犬を見たしみさぼカフェの参加団体が、せっかくだから盲導犬協会に寄付するという展開もありました。そんなところからも交流は生まれていたのかなと思います。

では、三つ目のワークショップのコーナーです。

こちらは、直接団体がやっている活動に触れることができるコーナーです。右上の画像は道産小麦を使った麦わら工芸作成の体験の様子になります。「NPO法人札幌村文化センター」さんにご用意をいただきました。非常に熱心に来場された方に麦わら工芸のすばらしさをお話しされていました。

そのほかにも、「フェアトレードフェスタ実行委員会」さんに貿易ゲームというワークショップを開催していただきました。これは簡単なワークをする中でフェアトレード、公正な取引というものはどのようにしたら行えるのか、逆に今それが行われていない理由は何なのかというのを、子どもから大人まで理解してもらえそうなワークになっていました。

こちらの「NPO法人リッシュ」さんには、センターの会議コーナーの前にある5台のパソコンを使って、ちょっとしたパソコンの悩みに答えてくれるコーナーを用意いただきました。

ワークショップについては、ほかのコーナーに比べると少な目の3団体の参加となっております。センターとしては直接活動に触れていただける、その場で見ていただけるコーナーというものも、今後はもっと力を入れていくことができると考えております。例えば、オープンスペースのような場所で継続的に開催するような形ですとか、実施方法等も踏まえてちょっと考えていければと思っていますところでは。

以上が各コーナーの説明になるのですが、今年度は本当にセンターがプログラムを用意して、それをみんなでやりませんかというよりも、どちらかというと、参加した皆さんが本当に自分たちのお祭りなのだ、イベントなのだという気持ちを持って臨んでいただけたイベントになったと思っています。先ほどお話しした事前ミーティングもその一助になっていると思うのですけれども、例えばこちらは準備・撤収時の写真なのです。第1回目、2回目のしみさぼカフェは職員がセッティングをして、終了後はまた片づけるという形をとっていたのですが、今年度は協力団体に前日準備のお手伝いをお願いをしたところ、非常に多くの団体に集まっていただきました。

こちらの左上の画像は、事務ブースに入っている「NPO法人北海道に森林を創る会」さんにご協力をいただいている際の画像です。

また、出展団体以外にも、ご協力をいただいた団体さんもいらっしゃいました。実は、傍聴で一番後ろに今、来ていただいているのですけれども、「NPO法人北海道生涯教育総合研究センター」の宮本さんには、当日、ずっと立って来場者のご案内をしていただきました。このようなご協力もいただいた中で実施できたイベントなのかなと思っています。

この後、しみさぼカフェだけのエンドミーティングというものを行いまして、参加団体

から一本締めの提案をいただきました。職員と協力団体とで一本締めを行い気持ちよく締めさせていただきます。最後まで、自分のところの片づけが終わっても残ってくださる団体さんもいらっしゃるまして、本当に団体の皆さんが主体となってくくり上げてくれたイベントだったなと思います。

今回の新しい形のしみさぼカフェは、協議委員の皆さんのご意見、アイデアというものを取り入れさせていただいてつくったものです。しかしながら、一つの事業の中にいただいたご意見すべてを取り入れることはできなかったのではないのかなというのが正直なところです。いただいたご意見で今回のカフェの中に反映できなかった部分は、ほかの事業の中に盛り込んでいければと考えております。

例えば、団体が持ち帰れるものが何かあればいいのではないかというご意見をいただいていたのですが、これについては市民企画講座の中で団体が事業をきちんと進めることができているか後で見てわかるような事業のチェックシートですとか、広報チラシや一般媒体への広報をどのタイミングで投げかけるのかわかるカレンダーの形式のものを団体の皆さんに持ち帰っていただく形で取り入れさせていただいております。

ほかにも、利用団体を対象とした学習会のようなものがあればというご意見もいただいているのですが、実は12月17日にサポートセンターの打ち合わせコーナーを会場として、サロン型の事業を実施しようという計画を今進めております。NPO法人ですとか任意団体といった団体の皆さんとお話をさせていただければという形をとっておりますので、その中で形にできればなと思っております。

本日もこれからいろいろのご意見をいただけると思うのですが、私たち担当者としては、いただいたご意見をできるだけ早く具体化し、市民の皆さんにお届けできればと思っております。今後とも市民活動サポートセンター主催事業へのご指導とご鞭撻をよろしくお願いいいたします。

以上です。

ありがとうございました。

事務局（小野主査） 以上で、平成21年度の事業実施状況及び施設利用の状況の説明を終了いたします。

横江座長 ありがとうございます。

それでは、ただいま報告、説明がありました運営状況について、委員の皆様からご質問等がありましたらお願いしたいと思います。

坂井委員、どうぞ。

坂井委員 2点ほどですが、1点目はメールマガジンの発行です。1ページ目の下から2段目に、この対象が現在510件となっているのですが、これはセンターとしてこのぐらいだと思っているのか、少ないと思っているのか、多いと思っているのか、この辺のご判断をひとつお聞きしたいと思います。

2点目は、資料4の3ページの市民企画講座です。今、会議室1・2、3・4を使うと

いうことでやっているわけですがけれども、そのほかの食材研究室などは絶対に使えないのか。先ほど、市民企画講座を見ていたら、おきなわ工房さんのところの参加者が非常に少なかったように出ていました。あそこは、簡単な食べ物が一緒に出てくると参加者が多いのではないかという気がしました。

その2点をお伺いしたいと思います。

横江座長 それでは、ただいま坂井委員より2点ありましたけれども、事務局よりお願いいたします。

事務局（小野主査） 1点目、メールマガジンの配信希望者数の件ですが、510という数字は順調に伸びてきている数字だと私たちは読んでおります。480から490が昨年度の数字になっていました。

2点目、市民企画講座の展開会場については、会議室以外の部屋を使用できないのかという要望は出ていました。特に食材研究室は我々の範疇を超えまして、消費者センターさんとの調整になるかと思えます。今後の検討課題としていきたいと思えます。

横江座長 ありがとうございます。

メールマガジンについてはさらなる件数があるとよいかと思えますし、会議室等の利用については、今後、広く使えるようになればいいなと思えます。

ほかにご意見、ご質問はありますでしょうか。

井上委員、何かありますか。

井上委員 2点あります。

1点目は、市民企画講座のことですけれども、非常に詳しく、よくまとまっている資料があるので、じっくり読んでこちらとしてもいろいろ分析をしたいと思えますが、全体的な傾向として、2回目という団体もあれば初めてという団体もあるのですが、特に2回目の団体がここにもう一回参加することによって、さらにどういうステップアップを見せる傾向があるのかということをお伺いしたい。

2点目で、口頭の発言の中で、学生の土・日の利用者がふえているということがありました。確かに、土・日だけでなく夜間の利用は学生の姿が非常に目立って活気があっていいと思うのですがけれども、いわゆる市民活動団体としての利用なのか、最近、大きな傾向として、大学での課外活動が非常にしづらい環境があるのです。こういうところで集まってというようなことが実際にあるようなので、実質的なところはどのような活動が多いのか。全体的な傾向で構いませんので、教えていただければと思えます。

横江座長 井上委員より2点ありましたけれども、まず、学生の利用のとらえ方、今後のあり方も含めてかと思えます。あとは、市民企画講座の2回目を実施された団体ですね。1回目がなかなかうまくいったので2回目、あるいは1回目の反省をもとに2回目をチャレンジということかと思えますが、事務局からよろしくお願いします。

事務局（小野主査） 市民企画講座の2回目実施団体に関しては、団体によって状況や状態がさまざまです。昨年実施し成功したので、今年もその勢いでやろうとしてい

る団体、または、昨年の不足している部分を整理し展開しようとチャレンジしている団体もありますので、一概に申し上げられないのが現況であります。実際、発展的に進んでいる団体に向けては、ここの会場を巢立っていただき、市内のいろいろな会場で展開ができるように職員は対応しております。まだまだ成長過程であると担当者が感じている団体とは、現在も一緒につくり上げている状態です。

続きまして、学生利用の件ですが、ご利用の際はサポートセンターのカウンターの前を必ず通ります。また、私たち職員も学生がどんな活動をしているかということが気になります。活動しているそばを通ってみたりしながら、活動状況を把握しております。現在は逸脱していると思われる活動をしている学生団体はありません。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

市民企画講座については、まだまだ希望等があるかと思いますが、かなり申し込みも多かったということで、ある種、実績のあるところ、あるいは積極性のあるところということでやられたかと思います。

学生、若い方が多いのはうれしいことですが、利用についてはそれとなくチェックを入れているということですので、適正な使い方をされていけば今のところ問題はないのではないかということかと思えます。

ほかに、委員からございますでしょうか。

榊委員 同じく市民企画講座についてですけれども、資料4ですが、支援結果、成果のところの分析についてですけれども、特に参加人数が少ない団体についての分析が、例えばおきなわ工房とか5番目のエココミュニティビジネス21の分析は、見せ方、広報に問題があるのではないかという分析だったと思うのです。そもそも、市民活動団体が事業を推進するとき、市民の参加者のニーズをどれだけつかんでいるかということ、何かサポートされていたのかどうかということをお伺いしたいと思えます。

横江座長 かなりいろいろとばらつきがありますが、実際に講座をやってみないとわからないということもあろうかと思えます。実際にやってみて、今、事務局の方でどういう印象を持たれていますでしょうか。

事務局（小野主査） 実施団体と職員との打ち合わせの際、募集定員に関してはこまめに予想し打ち合わせを重ねております。しかし、実施団体の講座に対する思いが強くこんなに集まらないのではないのでしょうかとアドバイスしても、これでいきたいという結果（思い）があります。今後は現実と想いのバランスを考えていきたいと思っております。

横江座長 ありがとうございます。

私どももいろいろな講座をやっていますが、これは悩ましいところです。たくさん来てくれると嬉しいのですけれども、少なかつたら少ないなりに最善の努力はしたいと思えます。せっかくサポートセンターと一緒にやっている事業でありますから、それ相応の効果を期待するということかと思えますが、今後も続けて努力いただきたいと思えます。

ほかにございますか。

宇野委員 二つあります。

1点目は、事業の方で、しみさぼ調査隊と、しみさぼ出張所ですが、このことは以前にも述べさせてもらったことがあるのですが、職員が疲れてしまうので、この辺を早く一本化してはどうかという意見です。といいますのは、こういうパネルも大変工夫されて、以前に意見も取り入れて、大変いいものになっています。今、目標として、しみさぼ調査隊が全区を対象として頑張っています。一方で、職員の方も含めて、それから相談窓口の方も行ってのしみさぼ出張所の方で、資料7に書いてあったのですが、しみさぼ調査隊のパネルを使うということであれば、早くこれを一本化してやっていかないと、職員もとてもしんどいと思うのです。ここのセンター自体のパネルもつくったということであれば、なおさらそれを早く一本化して、しみさぼ調査隊はフェイス・ツー・フェイスをすごく重視していると思うのです。それを大事に、これだけの労力をかけてつくられているものを早くすっきりしていった方が、やはり職員にもいいのではないかと思います。

しみさぼ調査隊に関してもう一つですが、資料3のところに、調査隊の最初のパネルに小さく皆さんの回答いただいたものはセンターの運営に役立たせていただきますというのだけれども、そこで共有できるようなものをその場に返していくということも一つのアイデアではないかと思ったのです。この一つ一つにぼちを張って、これだけの全区でやったら、それを区に返す、結果を返すということをやらないと、ちょっとやり放しになってくるのではないかと感じました。

2点目は、先ほどから出ている市民企画講座に関してですが、これは職員の方がすごくやっていると思うのです。一つ気になったのは、どうしても何人募集して何人来たのかということに私たちは目が行ってしまうのですが、この表の見方がわからないので教えていただきたいのです。この表の中にあるスタッフの人数は、その団体の人の人数でしょうか。恐らく、職員の方は当日に入ってカウントはされていないと思うのですが、そうすると、スタッフ人数が空欄になっている団体があるというのは、ちょっとどういう意味かなと思ったのです。

よくやっているなと思う中で、一つ不安になったのが、こういう内容ならこういうところがいいと広報の先をアドバイスしていらっしゃいます。ところが、それは一体だれがやっているのかと思ったのです。もちろん、協会のネットワークをフルに生かしていくことは、指定管理者制度の公設民営のいいところではあると思います。ただ、ちょっと斜めに読み取ってしまって申しわけないのですけれども、本来、その団体が自分たちであそこへ届けようということがすごく持久力をつけていくと思うので、そのネットワークで行政の何とか便などにぼんと乗せてあげることは果たしていいのだろうかという不安があります。これからではそれがわからないので、不安を覚えたのです。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

大きく2点、しみさぼの件と企画講座についてですが、事務局の方からお願いいたします。

事務局（小野主査） しみさぼ調査隊ですが、

現在、調査隊と出張所ということで2本立てで事業を進めております。この事業に関しましては、それぞれ今年度の事業計画に載っております。途中で投げ出すわけにはいかないという使命感部分もあります。宇野委員がおっしゃったように、一本化・統合してはというアドバイスをいただき、同時会場で2事業を実施している状況であります。また、調査した結果を共有するために実施した区に返すということは、今後ポイントを押さえながら実施していきたいと考えております。

続きまして、市民企画講座ですが、企画人数は団体のスタッフの人数になります。私たち職員の人数は入っておりません。

また、空欄ということで大変お恥ずかしい話ですが、状況把握しづらい団体もあります。途中で入ったり出たり、またボランティアで当日参加していただいているということも団体の活動の中にあります。今後は担当者の方で人数をきちんと把握し、空欄のないように表現していきたいと思っております。

また、広報先のアドバイスに関しては、団体がこのような対象のこういうようなところに配付したいというご意見はもちろんお持ちであります。それを受けた上で、私たちのノウハウ・プラスアルファの対応となります。一方的にこちらがここにしなさいよというような広報先のアドバイスではありません。自分たちでの配付先の選定も行っております。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

宇野委員 ちょっと質問がずれていてご回答が違ったと思うのですが、市民企画講座の方は、内容によってそういうふうなアドバイスされているのはわかるのです。ただ、そうではなくて、例えば公共施設のこういうところがいいですよといったときに、チラシを団体から預かってやってしまっているのか、そういうのは自分たちの足でやってもらっているのかということをお聞きしたかったのです。

それから、団体のスタッフ人数ということで表をつくられていて把握できないというご回答だったのですが、そうすると、実際の支援内容の中で、主催している団体とコミュニケーションをとって企画を進めていく中で、主体的に担っているのはだれなのかを明確に今現在はアドバイスできていないということになりますね。それを相手に意識してもらおうとかね。

それをやれていないと非難しているわけではなくて、意外とそういうことが団体を育てるもとになると思うのです。だから、その辺が一つの企画を通して、そこはきちんと把握できるような形の方がいいと私は思うのです。事務局に質問して委員が答えをもらって終わるのは余りいい会議とは言えないので、ほかの方の意見をいただきたいのです。

井上委員 僕は、実はそう思わないのです。初期の段階のときは、やはりプライベートのつながりで活動に協力してもらう方は絶対に出てくるのです。その場合、登録はしないのだけれども、協力するという形での出入りということが往々にして起こりえますし、大体、初期のころはそういうことがないと活動が成り立たない場合があって、それをいわゆるオープンな形でのいわゆるスタッフ登録とか、今、遠友塾では基本的にはスタッフになる方はみんなどういう形で来ても登録ということになっているのですが、そうなるまでもまた時間がかかるのです。時間はかかるのですけれども、そういうプロセスを、1回、途中どこかで踏んでいかないと、それこそ離陸をしていけないという事情があるのです。それは、確かにいたし方ないところがあるのです。

ただ、いわゆるオープンにきちんと登録している、中心になっている人数をふやしていく努力は確かに大事なことだと思うのです。これは書き方だと思うのですが、把握している人数だけでも書くという方法はあるかなという気はします。ただ、実際にはもっと多い人数でやっているケースは当然あるかと思います。

横江座長 ありがとうございます。

宇野委員 言っていることもわかるのですが、問題はそうではなくて、この企画を立てて団体が実施していく中でつくられる表であれば、少なくともその企画に対して、私はスタッフ、私はボランティアみたいな団体内の意識は持ってもらって、それを表にしていかなければ、この表が完成しないような気がしたという意味です。

登録団体の人数をスタッフとして、あなたはそうか、そうではないか、出入りしていけない、いいという問題ではないと、私はそういう意味で言ったのではないのです。

井上委員 そうなのだけれども、そこがはっきりしないところが、組織としてはまだまだ初期段階ということなのではないかということです。

横江座長 わかりました。

これに関連しまして、ほかの委員、ご意見はありますか。

嶋委員 宇野委員の言うことも井上委員の言うこともわかるのですが、宇野委員が言われているのは、自分たちが企画したものだったら、当日、正メンバーか、応援するメンバーかにしても、人数ぐらいはちゃんと言えらるだろうということですね。私も、サポートセンターの方では判断がつかないので数が書き込めませんでしたという問題ではなくて、企画した団体の人たちが人数を把握できるだろうということですね。それで、どこに主体があるのかという言葉になったというふうに私は受け取りました。

やはり、ここまで綿密に計画を練って、事前のサポートをして、準備もサポートして、当日までこぎつけるわけですから、企画する団体はその日の参加人数も空欄になっているところもあって、ちょっと不思議だなと思ったのですが、参加人数とスタッフの数というのは、ご自分の企画であればその団体が自分たちで把握するのは当然だと私も思います。そこは、サポートセンターの方がちょっと把握できなかつたら、団体の方に何人でしたかと聞けば済む話なのかなと思います。せっかくこれだけ綿密にサポートしているのであれ

ば、こういうところを空欄にするのはもったいないなと感じました。

横江座長 ありがとうございます。

参加人数については、まだ実施日が先のものかと思いますが、スタッフ人数については団体の方に確認して記載をお願いしたいと思います。

これに関連して、ほかにございますか。

議題の(2)がまだ残っていますので、そちらに進みたいと思いますが、(1)について言い忘れたとか、これだけはという方はいませんか。

石村委員 みんなのしみサポですが、これはリニューアルして非常に好評です。私も非常にいいなと思っております。

ただ、残念なのは、実際に5,000部印刷されて、各団体に配付されているのでしょうけれども、それがどのように末端まで届いているかということが実は確認できないわけですね。早い話が、例えば区民センターの1カ所にどんと置いておくというだけで終わってしまっているわけです。私は非常にもったいないといつも思っているのです。

それで、実は私も先走ったのですけれども、少しもらって知り合いにかなり配っているのです。個人的に配付しているのです。そうすると、大変好評なのです。やはり、せっかくいいものをつくったのですから、多くの市民の方に知ってもらう、一人一人のところに手が届くぐらいに配付してあげると。読んでもらわなければ、幾らいいものをつくっても宝の持ち腐れになってしまいます。ですから、これを効果的にやるには、どの程度行き渡っているのだということを何らかの形で把握できないものかなということを懸念しているところです。

何かそういうようなアイデアがあれば、ぜひサポートセンターでも考えてほしいと思っています。果たして5,000部がいいのかどうかということもあわせて検討していただきたいと思っています。

横江座長 ありがとうございます。

せっかくいいものをつくる、あるいは知識を得ても、それを意識して活用する、生かすようにしなければいけないということでしたので、いろいろ努力はされていらっしゃると思うのですけれども、さらに意識して取り組んでいただきたいと思います。

では、きょうの2番目の検討事項に入りたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

事務局(小野主査) 検討議題、「団体活動支援に関する業務(情報センターとの連携)について」ですが、私の文章表現が不適切なためか、何名かの委員さんからよくわからないというご指摘を受けました。申しわけございませんでした。協議会の冒頭に、高橋事務局長のあいさつの中にもありましたとおり、市民活動サポートセンターが情報発信拠点としての機能をより一層高めていくためにも、情報、学習資料というのが重要ではないかと考えております。サポートセンターを利用する団体の皆様が団体の活動に必要な情報や事柄について情報センターを活用していただき、団体活動の充実を図っていただきたいとい

うのが思いであります。

検討に入る前に、情報センターとは何なのかということで、情報センターの概要及び現在、情報センターではどんな事業を行っているかということ、担当しております会田主査の方からプロジェクターを利用してご説明申し上げます。

事務局（会田主査） ただいまご紹介いただきました管理主査を担当しております会田と申します。

皆様の前の画面の方を見ながら、お手元に事前にお配りした資料、カラー版ということになっております。大きな画面で見ながら説明させていただきたいと思っております。

まず、エルプラザにございます情報センターは実際に見ていただいている方、普段からご利用をいただいている方、もしかしたら何もわからないという方もいらっしゃるかもしれません。情報センターについて簡単にご説明いたします。

エルプラザ1階にある施設として、公共4施設に関する情報の資料、収集等を行っております。市民活動を初め、男女共同参画、消費生活、環境に関する専門分野の図書、資料の閲覧や貸し出しを行っております。

また、コンピューターを使った図書の検索システムなども持っております。インターネットを利用しての関連情報を一覧できるパソコンコーナー、あとはビデオ等の観賞ができるコーナーも設備として持っております。

今出ている事業になります所蔵図書統計ということで、平成21年度10月分の情報を載せております。今回、見ていただいている資料については、市民活動の分野に関する蔵書の数ということで載せさせていただいております。10月末現在で2,112冊ございます。そのうち図書資料として1,977冊、さらにそのうち行政資料が449冊、雑誌が119冊、視聴覚資料ということでビデオ、CD、DVDになりますけれども、こちらが16となっております。

2番目の貸し出し数は、市民活動の分野に関する10月、1カ月分の貸し出しの数ということで63冊です。

3番、4番目については、全体でということになりますけれども、10月に来館された方が2,935人、新規登録ということで、こちらの資料の貸し出ししていただく際に貸し出し券というものを発行しております。その券を持ってカウンターに来ていただいて貸し出しをさせていただいておりますが、その貸し出しの登録、新規の登録をされた方が73名ということになっております。

施設としての概要ということですが。

続きまして、事業についての説明をさせていただきます。

情報センターで取材している事業は幾つかございますけれども、きょうは七つほど紹介させていただきます。

それぞれの事業に共通している目的としましては、4施設に関連するさまざまな活動がされている皆様の役に立つ情報、あるいは一般市民の方に向けても役に立つ情報の提供、

または、その発信元である情報センター自体のPRも含めてということで、各種の事業を実施しているものであります。

まず、一つ目の特集コーナーになります。こちらについては、年6回の実施ということで、各施設に関連するテーマを各回設定しまして、そのテーマに沿った啓発ポスターを職員の手で作成しまして、情報センター内に展示をしております。テーマに関連する図書もあわせて選定しまして、紹介文を作成し、展示を行っているものです。市民活動の分野に関しまして最近行ったものとしましては、まちづくり、社会教育、福祉、人権、災害救助、あとは市民活動全般というテーマを最近取り上げております。

続きまして、2番目になります。

ブックフェアということになります。こちらも、年6回、各回、テーマを決めての実施となっております。テーマに沿った推薦図書をこちらは職員の推薦図書ということになりますけれども、作成しまして、コメントとともに情報センター内で展示をさせていただいております。情報センターのホームページにもあわせて掲示をし、利用者の方に読みたい本、コメントに対して読みたいなというものがありましたら、シールで投票していただくような形をとっております。投票結果については、後日、掲示をさせていただいております。こちらは、どちらかという一般市民の方、初めて利用されるような方が本を選ぶ際の参考になればということで実施をさせていただいております。

続きまして、外部向けの展示になります。

文字どおり、エルプラザの外を歩いている方、通行人の方に向けての展示ということになります。エルプラザ自体、情報センター自体をまだ知らない方に向けても啓発していきたいということで行っております。こちらについても、年6回の開催ということになっておりますけれども、情報センターを利用したことのない方に興味を持っていただくきっかけになるようにということで、こちらについても推薦図書の掲載をしております。外に向けての掲示ということで、ちょっと大きなサイズでの展示ということで、目につくようにという工夫をされているものです。

続きまして、図書案内になります。

こちらについては、情報センターの所蔵資料の案内ですが、4施設の窓口で配付をしております。エルプラザを使って活動している方々に直接届くようにということで、手軽に手にとってお持ち帰りもできるようにということで、ボリューム的にはちょっと少ない内容にもなっておりますが、目についたものすべて手にとって資料として活用いただけるようにということで発行している資料になります。こちらについては、年12回、各月発行しております。最近取り上げた市民活動の分野については、国際協力、人権、教育、ボランティア活動などに関する情報の提供をしております。

続きまして、読者の感想掲示板になります。

こちらについては、情報センター利用者の方同士が情報の発信、受信を行い、お互いの相互交流の機会となればということで目指して行っているものです。内容としましては、

利用された方、本を読んでいただいた方の感想をこちらで用意しています感想シートに記入していただいております。そのシートと紹介図書をあわせて展示をすることで、皆様の目に触れるようにして、こちらについてもこの感想を読んで、読んでみたいなと思った方についてはシールで投票をしていただくような形になっています。初めて利用される方などが本を読む際の参考になればということで、こちらもあわせて実施しております。

続きまして、情報センター便りの発行になります。

こちらについては、情報センターの周知及び利用促進を主な目的として作成されている広報紙になります。紙面としては、図書資料の紹介はもとより、施設の情報とか各施設で行われる事業の情報などもあわせて掲載して、本の紹介というよりはそちらの内容に力を入れているものになります。配付先も、市内公共施設、関連施設等100カ所、外への配付ということで、これを見ていただいてエルプラザに足を運んでいただきたいという内容での紙面づくりを心がけています。年6回の発行で、各号約2,500部ということで作成しております。

最後になりますけれども、啓発パンフレットを発行しております。今までご紹介した事業で、職員がいろいろな資料の作成をしております。それぞれ4施設に関係するものをそれぞれの内容に応じてまとめて1冊の本にしたものです。市民活動を初めとした諸活動の背景とか、手づくりのもので掲載して、関連する図書の紹介をあわせて行っております。活動団体の方はもとより、一般市民の方にも暮らしに役立つ情報誌としてぜひ活用していただきたいということで作成したものになっております。

こちらについては、発行部数3,000部で、平成19年度に1度発行しております。好評をいただきまして、第2号を、年度内の発行を目指してたがいま準備をしているところです。

簡単な紹介ですが、情報センターの概要についてお話しさせていただきました。

事務局（小野主査） 只今お配りいたしました資料ですが、現在市民活動サポートセンターにて情報センターとの連携の実例であります。大きく分けて「パンフレット等の配付」「新規登録団体への配付」「受け付けカウンターでの配架」ということになります。

2点目は、図書の紹介です。特集及び新着図書の情報の掲示を現在しております。

以上です。よろしくお願いいたします。

横江座長 ありがとうございます。

1階にあります情報センターにつきまして、皆様にもっと多く活用していただきたいということでご紹介いただきましたけれども、委員の皆様から、市民の方が利用促進できるように、こういうことがあればとか、もうちょっとわかりやすくとか、今連携しているところではございますが、ご意見がございましたらお願いしたいと思います。

岡田委員、お願いします。

岡田委員 まず、2点の質問と、5点、今わかっている情報での意見があります。

まず、質問ですが、市民活動サポートセンターと情報センターということですが

れども、どういう利用のされ方を望んでいるのか、団体としてどう思っているのかというのが知りたいのです。

2点目が、本当に時間が短いのですけれども、もう少し焦点を絞った聞き方をしてくれた方が答えやすいのではないかと感じています。

そして、意見ですけれども、蔵書が2,000点余りということで、私が研究で集めた個人的な本だけでも1,000冊ぐらいあると思うので、ちょっと少ないのではないかとということです。

あとは、分析なのですけれども、同じ冊子の何ページか後に、情報センター利用10月分というものがあって、その中で市民活動サポートセンターの登録者が63人で、ほかの男女共同参画センターなどと比べると少ないということを行っているのかなと思っているのです。ただ、これは、最初の資料にあった市民活動云々というパンフレットに、どういふことを市民活動として取り上げているかというページがあったと思うのです。そういうものと比較すると、男女共同参画センターとか消費者センターとか環境プラザというのはかぶっていると思うのです。そういう中で、それ以外の市民活動では63人しかないというような分析の方が合っているのではないかと思ったのです。

3点目ですけれども、市民活動のパンフレットの8ページ目には、相談者の分野ということで、一番多いのが保健・医療・福祉です。この「保険」は「保健」ではないかと思うのですけれども、16.7%とか、学術文化が17.1とか、まちづくり12.6%、子どもというのが10.9%と多いのですけれども、そういった分野の本がどれだけあるのかということがあるので、多様なニーズにその他の図書が対応できていないのではないかとということです。

そして、4点目の意見としては、今回ブースに入っている入居団体とか登録している団体にどういふ本が欲しいですかというリクエストをしたらいいのではないかと思います。

5点目は、こういったいろいろな活動団体の人たちが実際に情報をどこで得ているのか、あるいは、市内の他の図書館を利用されているのかということもアンケートで把握すれば、少しこの利用促進のアイデアになるのではないかとということです。

以上です。

横江座長 ありがとうございます。

かなりまとめて意見をいただいたかと思いますが、事務局の方からお願いいたします。

事務局（小野主査） 貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

こちらの説明文に書いてありますが、サポートセンターを利用する方々が自分たちの活動の糧になる、または活動のための参考になる分野の本をより広く活用していただきたいというのが第1点の目的であります。非常に蔵書数が少ないというご指摘も受けましたが、専門書がございますので、その専門書を利用する方々にいかに身近に感じていただくかというアイデアをいただきたいというのが大きな2点目でございます。

「ブースの入居団体へのリクエスト」「利用者へのリクエスト」というのも非常に大き

なご意見になりました。今後はいただきましたアドバイスを基に協議していきたいと思っております。

ありがとうございます。

横江座長 ありがとうございます。

実際に、エルプラザを利用して、あるいは入居していて、そういうところへのアピールということで、長い間、こちらをご利用されている坂井委員、ご意見をお願いしたいと思います。

坂井委員 私も、ここができたころから2年ぐらいは、実は図書の貸し出しカードもちょうだいして利用させていただいたことはあるのですが、その後、余り足を向けておりません。

一つは、今、蔵書等のことについてお話がありましたけれども、逆にスペースとしてどう使ったらいいのかという部分があるのです。いわゆる資料室的な感覚なのか図書室的な感覚なのか、あるいは、例えば私のグループでも1度話し合っあそこへ行ってみるという話も出たのですが、例えば、あることについてAという著者の方はこう言っている、Bという著者はこう言っている、Cという著者の方はこう言っているというときに、それを借りてきてまた2階へ上がって行ったり来たりして、それが足りない、もう一回、下へ行けというのは面倒くさいということがありまして、結局、うやむやになってしまったということがあります。

本なり新聞なりを静かに読んでいらっしゃる方もいらっしゃいますので、余りがやがやするのは当然よくないと思うのですけれども、あそこで一切声を出さないようにということになってくると、あの場での話し合いが進まないなという感じでおります。

もう一つ、蔵書数の問題がありました。当然、中身との兼ね合いもあるのだろうと思いますけれども、今、私は特にそうなのですが、多くの人たちが、今年、去年、皆さんがどんなことをやっているのだろうということについては非常に興味を持っていらっしゃいます。ところが、図書で何年か前というと、もう既に知識として入ってしまっているのだから見なくてもいいという部分もあるのではないかという感じをしています。

あの場所の利用の仕方として、そういうような会話をするという部分について、どの辺までは許されるのかなということもお聞きしたいと思います。

横江座長 ありがとうございます。

では、同じく長く活用されています三浦委員、意見ををお願いしたいと思います。

三浦委員 私は、できればふえているのか減っているのかということがわかった方がいいなと思っていました。札幌市全体の図書館の利用率が減っているのだったら、ここも減っているでしょうし、岡田委員が言われた63人という数字は、当然、分野がかぶっているわけですから、この数字もちょっと判断しにくいし、何ともこのデータからは判断が難しいのですけれども、そういうことを一切無視して利用率を高める提案を幾つか言ってみます。

まず、それは、ほかの市立図書館のホームページにリンクを張ってもらおうということですが、ここは、図書館の扱いになっていないらしいのですが、ホームページにリンクを張るぐらいはやってもらえると思うのです。ここは、図書検索の機能も、一応、ホームページを持っていますので、そういう働きかけをしたらいいと思います。

それから、サポートセンター分の関連図書は2階の通路あたりに何冊か借りてきて展示するのがいいと思います。

それから、ここでやっています講演会とか講座のときは、必ずこの職員が出向いて、終わりか始まりに何分間か図書の紹介をするようなことをやっていいのではないのでしょうか。

それと、あのスペースで、今までキャンドルナイトなどのちょっとしたイベントをやっていたのですけれども、あの中でやってしまうということもありだと思っただけです。

また、図書の検索機能がついていますから、例えば事務ブースの中の人が図書を検索して、この本が読みたいなと思ってここに電話したら、エルプラザの館内は配達してもらえるぐらいのサービスはやっていいのではないのでしょうか。

そんな提案です。

横江座長 ありがとうございます。

長年活用いただいている坂井委員と三浦委員から、また岡田委員も含めていろいろなアイデアが出たと思います。全部をやるのは大変かもしれませんが、まず、できるものからやっていただきたいと思います。

私も長く使っていますが、余り積極的に広報を受けたことがないということですから、多分、ほかの団体も何となく下にあるなとは思っているのですけれども、余り積極的に利用について説明を受けたり推進を図られたことはないのかもしれませんが。逆に言いますと、余りやられていないから、ちょっとやってみると効果が、すぐは出ないかもしれないけれども、楽しみもあるのではないかと思います。それほどコストをかけずに、先ほどの問題点1のときと同じですが、ちょっと意識していただいて、常に広報に努めるようにということをお願いしたいと思います。

ほかの委員から何かありますでしょうか。

井上委員 まず、質問です。

先ほど、ここは図書館という位置づけではないということでしたが、いわゆる市立図書館などとの相互貸借ということもないということですね。

ということですが、一応、活動に関するいろいろな学習を進めるに当たって、スペース的には蔵書数という面で明らかに限界があると思うのです。正直、数がどうこうという以前の問題として、あのスペースで図書館資料で活動に関する学習をしていく、しかも市民活動だけではなくて、男女共同参画も消費者関係も環境もということしていくと、正直に言って、無理なのではないかと思います。そうなってくると、やはり既存のほかの図書館との連携がないと、一人で学習を突き詰めていこうとしたときには、機能としては比重に敵

しいのではないかと思います。そういう意味で使うということであれば、いわゆる相互貸借機能は必須なのではないかと思います。

それから、今、幾つかの意見の中で、ここで活動している人たちがもっと利用しやすいようにということ考えると、正確ではないかもしれませんが、学校などの単位で本を借りるときに、まとめて借りることができたような気がするのです。そういうようなやり方を応用して、団体でまとめて10冊、20冊どんとある程度の期間貸してしまう、そして、ある程度活動がおさまったら返してもらう、いわゆる団体貸借みたいな形をやってみたらいかがかなということが一つです。

もう一つは、実際にここで活動している人たちの成果物、場合によって出版などされているものがあるのかもしれないのですけれども、そういうものがどれくらい置かれているかということがあると思うのです。

確かに今、実際には私自身も最新情報を見たければ、やはりウェブになるのです。ただし、その団体がどういう思いで活動したかという総括みたいな部分というのは、ある程度きちんとまとまった本でなければわからないのです。何をやっているかということはウェブでわかるのですけれども、やはり書籍というのは、そういう人の思考などがきちんと反映されている部分があるので、やはり本を読まないといけないということがあるのです。そういうものがもうちょっと集積されていると、まさしくここで活動されている人たちの交流機能が増すのではないかと思います。

そのあたりは、結構厳しいこともあるかもしれませんが、ある程度のところまで踏み込んでいかないと、スペースの限界は超えられないのではないかと思います。

横江座長 ありがとうございます。

いろいろな問題点、課題が見えてきたかと思います。

嶋委員 私も、実は数年前に自分がちょっと調べたいものがあってまとめて何冊か借りたことがありました。実際に、自分が今活動しているもののタイムリーなものはあそこではなかなか得られないなという印象を持っています。市民活動はこれだけ多岐な分野にわたって、そして先駆的な活動をしたと思ったときに、あそこからは自分たちが今必要なものはなかなか見つけられないかと思うのです。

先ほども意見で出ているように、どういうものを貸したいか、どういう人に何を貸すかというところを絞るべきで、今、実際に活動している人たちが本当に新しい情報を欲しいというのはもう無理だと思うのです。相互貸借みたいなところで、図書館とリンクするところではあると思うのですが、そこにそろえられるもので、最大、どういう効果が出せるのかということでは、古くても生きる情報とか、一番新しいものではなくて統計だっただけ何かを調べたいようなときは効果があると思うのです。

やはり、蔵書を絞るべきだと思うのです。例えば、新しいものであれば、分厚い専門書のようなものよりは、私があそこで利用しやすいと思うのは、雑誌系のものとか、薄くて雑誌ばい、でも、新しい情報がどんどん載っているというものがありますね。そういうも

のを毎月自分で購入するには限りがあるので、雑誌系のものとか、情報誌のようなものを
どんどん貸してくれれば良いなというふうに実感しています。

横江座長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

宇野委員 事務局から何度も説明をいただいたのですが、やはり、検討議題の意味が、
何を検討したいのかがよくわからないのです。ただ、質問かたがたですが、一つは利用が
低いと事務局は思っているのでしょうか。その根拠が示されているのかなと思った
統計がこの利用統計表なのでしょうか。

先ほどから、岡田委員も皆さんもおっしゃっていたように、私も図書の2番目の資料の
貸し出し数で、最初の文面で市民活動の分野だけは貸し出し数は63だよというのがわざ
わざ載せられているということは少ないと言いたかったのです。やはり、これは見せ
方だと思うのです。その他も入れれば18分野に分けることができる市民活動の中で、こ
れはどうやってカウントしたのかなと逆に思ったのです。というのは、貸し出しカードに、
あなたは市民活動団体ですと言われたわけではないし、実は、貸し出し図書の、ここには
センターという書き方をしていますが、分類がこの情報センターでは四つに分かれてい
るから、この種類の本を借りた人という統計になると思うのです。その辺で、この表はあ
いまいな表記になっていると感じました。

もう一つは、ここに情報センターがあるということは何となくわかっているのですが、
ホームページをよく見ていくと、今、どんな本が今あるのかちゃんと検索できるのです。
それが、1回目の報告にもあったように、ホームページが見つらいのです。そこで、きち
んと市民活動サポートセンターからワンクリックで行けるようになっていなければいけな
いと思うのです。そして、行く先にはいろいろなものが置いてあり、一般の図書とは違
うのだけれども、この4タイトルの分野のものがあるということを出せばいいのかなと思
いました。

もう一つは、先ほどからも出ている図書館ではないというところで、司書はいらっし
ゃらないと思うのです。そうすると、先ほどは職員による推薦の図書を購入したという部分
が、職員の方がそれを担っていくのはちょっと無理があって、利用者とかここに来る人
たちニーズはすごいと思うのです。ちょっとこれは無理があると思います。

この蔵書は、全体の蔵書数がないし、市民活動に関するものだけの蔵書の目録も、今、
データとしてない中で、きょうの議題で私たちに何を求められているのかがわからないの
です。やはり、全体の蔵書のうちの何割がこの蔵書数か、そういう意味ではもっとい
っぱいあった方がいいという人も出てくると思います。市民活動サポートセンターにある情報
がもっと地域につながっていくという話が前期にも出ていましたが、地区センターでこ
この蔵書が見られるというリンク、それから、地域の図書館でここにあるものが見られ
る、将来は取り寄せられるというのがすごくいいような気がします。

そうすると、置くものはどんなものが必要なのかということにつながっていくと思いま

す。先ほど岡田委員だったでしょうか、データのとり方をもうちょっと利用団体に聞いてみるということとあわせて、データの出し方を工夫すれば公設民営の市の方には何とでもうまくいくと報告できると思うのです。場所の利用ということで坂井委員がおっしゃっていて、私は、ぼっと入れば、あそこは図書館というイメージが非常に強くて、先ほど三浦委員がおっしゃった館内利用の案がいいかなと思いました。

パンフレットも、よくできているのですが、非常にお金がかかる話だと思います。特に、このセンター便りというものを見たときに、センター便りで特集を組み、あの場でも特集コーナーがあり、すごく頑張っているのだけれども、つながっていないと思います。例えば、特集、消費生活といったときに、あの場の中で蔵書から出すブックフェアと別置き事業がリンクしたり、特にブックフェアというところと別置き事業が一緒になっていないのですね。どうしても、ずれてたくさんというところがちょっとわかりづらいと思ったのです。

実は、図書の方を少し勉強してきょうは臨んだのですが、やはり、札幌市の図書館がどうあるべきかというのは、今、中央図書館を中心にして運営協議会で検討されていますね。中央図書館自体に求められているものが地区と違うとか、そういうところからすると、ここはどういうものなのか、もうちょっと掘り下げる資料がないと、アイデアをいただけませんかだけでは、ちょっと1時間の議論の中では難しいです。私たちが好きなことを言って終わるといえるのは、協議会としてはよくないパターンではないかと思います。

横江座長 ありがとうございます。

情報センターの利用促進、あるいは活性化ということで、委員の方からそれぞれアイデア、意見、提案をさまざまいただきましたので、それを事務局の方で集約して、よりよい利用が図れるようにしていただきたいと思います。

時間が追っていますので、最後にどなたか1人、もし意見がありましたらお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

坂井委員 私も頭の中がまとまってはいないのですけれども、情報センターということで、4施設の横のつながりですね。消費者センターは消費者センター、サポートセンターはサポートセンターではなくて、せっかく4団体の情報をお互いに交換できる場所なので、それぞれの方向性がどうなっているとか、こんな団体がどうなっているかというところを合体して広報みたいなものを出していけないのかと思うのです。男女共同参画センターで何をやっているのかといっても、ほとんどわからない、出てくるのはDVの問題だけということになるわけです。男女共同参画はDVだけやればいいのかということになってしまっているケースが多いので、そういうところをお互いに知らせ合うという意味での情報センター的な動きができないのかなという感じがするのです。

横江座長 わかりました。

せっかく四つありまして、それが一つの中にあって連携している。よく社会でも言われますね。社会経済をよくするのにどうしたらいいか、環境対策はどうするのだと言います

が、それは一体であろうと思います。環境・社会・経済学ということも言われますので、一つのものとして効果を上げていっていただきたいと思います。

各委員からたくさんの意見をいただきましたので、それがこの協議会の一つの提案なり成果でもあるかと思えます。

時間にもなりましたので、これで(1)(2)の議事を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございます。

事務局(高森主査) 横江座長、ありがとうございました。

今回の議事録は、作成後、各委員の皆様へ送付し、確認後、返信していただき、集約したものを市民活動サポートセンターホームページに掲載させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、札幌エルプラザ公共4施設館長の大川よりごあいさつを申し上げます。

事務局(大川館長) 大川でございます。

事業運営協議会の終了に当たりまして、委員の皆様へ一言お礼を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、市民活動サポートセンターの運営につきまして、長時間にわたりご検討をいただきまして、まことにありがとうございます。

また、座長をしていただきました横江委員には、重ねてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

本日、委員の皆様方からいただきました大変貴重なご意見は、今後の運営に反映をさせていただきます。きょうの部分でも事務局の方として準備不足の点がございました。おわびを申し上げたいと思っております。

今後につきましても、この委員会は残すところあと1回でございます。忌憚のないご意見をいただいて、運営に反映をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

簡単ではございますけれども、閉会のあいさつとさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。

4. 閉 会

事務局(高森主査) 以上で、第4期4回事業運営協議会を終了いたします。

皆様、ありがとうございました。

以 上